

2020年5月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「新型コロナウイルス感染症の拡大の影響などにより、悪化している」と、前回の「新型コロナウイルス感染症の拡大の影響などにより、下押し圧力の強い状態にある」から、2か月振りに下方修正しました。
- 需要項目ごとの判断でも、個人消費について、「ばらつきはみられるが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、全体としては、弱い動きとなっている」、観光についても、「新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、厳しい状況にある」と下方修正しました。その他の項目には、変更ありません。
- 雇用面についても、「労働需給は、引き締まっているものの、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響がみられている」と下方修正しました。金融機関の貸出の面については、前回と同じ判断です。預金、貸出とも前年より増加しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、4月、前年を幾分上回りました。引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けた来客数の落ち込みから、衣料品、白物家電等の販売が減少した一方、マスク等の衛生用品のほか、自宅で過ごす時間が増えていることに伴い、日用品や食料品に需要増がみられたためです。5月も、外出自粛の動きが続いた中で、大規模店を中心に、来客数の減少や買い控えがみられたとの声が聞かれたところです。

- 4月の新車登録台数は、軽自動車、除く軽、合計とも前年を大幅に下回りました。合計は昨年10月以降、7か月連続でマイナスです。前月までマイナス幅は縮まってきていましたが、4月は自動車ディーラーへの来店客の減少など、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響がはっきりと表れた格好です。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、4月は前月に続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、全ての空港で前年を大きく下回り、全体でも3か月連続で前年を下回りました。この間、旭川空港の国際線の就航便数も、4月は前月に続き、定期便、国際チャーター便ともにゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、4月、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による旅行需要の激減等から、前年比大幅な減少となりました。こうした中、ホテル・旅館では、休業に踏み切る先が散見されています。旭川地区のホテル客室稼働率も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、前年を大きく下回り、過去最低水準を更新しました。
- 各地観光施設の入込みは、4月、前月に続き、ウェイトの大きい旭山動物園をはじめ、層雲峡地区、ウトロ温泉、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーがともに前年を大きく下回ったことから、合計でも前年を大きく下回りました。こうした中、観光施設では、休業に踏み切る先が多くみられています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、4月、オホーツクで前年比著増となったほか、上川、宗谷で前年を上回ったため、全体でも前年を大きく上回りました。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、3月、持家が前年を上回ったものの分譲が前年並み、貸家が前年を下回ったことから、全体では前月に続き、前年を下回りました。四半期ベースで見ると、1～3月期は貸家の増加等から、前年を上回りました。

■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、3月、宗谷で前年を下回ったものの、上川、オホーツクで前年を上回ったため、全体でも前年を上回りました。

■雇用

- 雇用状況は、タイトな状況ながら、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響がみられています。有効求人倍率は、3月、旭川、稚内、網走、北見のすべてで高めの水準にはあるものの、前年を下回りました。新規求人数は、3月、北見は前年を上回ったものの、ウエイトの大きい旭川のほか、稚内、網走が前年を下回ったことから、4つの職業安定所を合計した新規求人数でも前年を1割方下回りました。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、4月は前年を幾分上回りました。4月まで14か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 今後、道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、①緊急事態宣言が解除され、経済活動が徐々に再開に向かう中での観光、消費の動

きを特に注意して見て参りたいと思います。また、②当面、低水準の経済活動が続くことによる雇用面や設備投資計画への影響、③公共工事について、道北地域での公共工事請負金額の伸びが北海道全体より見劣りしつつある点も見据え、人手不足の問題を抱える当地の建設業者が受注を続けられるかどうか、といった面にも注意を払いたいと思います。

以 上